

科目名	整形外科学Ⅱ					
科目名(英)	Orthopedic Surgery II					
単位数	2	時間数	30時間	担当者	九州大学整形外科教室	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院で医師として診療	
対象学科・学年	作業療法学科 2年					
授業概要	整形外科領域の疾患・治療法を理解する。各身体部位の基本構造を知り、外傷を理解する。各整形外科領域疾患の特徴的な症状・病態を把握し、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。作業療法が関わる障害が、どのような疾患から起因するかを知る。					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	○	○				
	目標					
	○	○				
	○	○				
○	○					
○	○					
○	○					
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準整形外科学(医学書院) 標準理学療法学 作業療法学 専門基礎分野 標準整形外科学(医学書院)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	11章-1 骨折1 概論－骨折とは－			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	2	11章-2 骨折2 体幹の骨折			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	3	11章-3 骨折3 上肢の骨折			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	4	11章-4 骨折4 下肢の骨折			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	5	12章 脊髄損傷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	6	13章 関節における外傷性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	7	14章 末梢神経における外傷性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	8	15章 腱・靭帯における外傷性疾患			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	9	16章-1 スポーツ外傷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	10	16章-2 スポーツ障害			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	11	17章 熱傷			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	12	18章 切断および離断			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。	
	13	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
	14	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。	
15	まとめ			これまでの授業資料を確実に復習しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	○	◎			
履修上の注意						

科目名	内科学Ⅱ					
科目名(英)	Internal MedicineⅡ					
単位数	2	時間数	30時間	担当者	平田 由起	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 2年					
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。 ・作業療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 					
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	
	○	○			内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○			内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○			内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○			作業療法士に関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○	○		作業療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	血液・造血器疾患1 血液の成分・造血・貧血			生理学教科書も併せて予習しておく。	
	2	血液・造血器疾患2 白血病・リンパ腫・止血・出血傾向			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	代謝性疾患1 糖蛋白代謝・脂質・ビタミン・ミネラル			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	4	代謝性疾患2 糖尿病・メタボ痛風			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	5	内分泌疾患1 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	内分泌疾患2 内分泌疾患各論			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	腎・泌尿器疾患1 解剖・生理・症候・検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	8	腎・泌尿器疾患2 糸球体・腎不全・ネフローズ症候群			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	9	腎・泌尿器疾患3 尿路感染症・電解質異常			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 内部障害も併せて予習・復習しておく。	
	10	アレルギー等1 免疫・アレルギー・リウマチ関節炎			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	アレルギー等2 膠原病・免疫不全			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	感染症疾患1 診断・予防			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	感染症疾患2 細菌感染症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	感染症疾患3 真菌症・ウイルス感染症・原虫・寄生虫			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(筆記)	◎	◎			
履修上の注意						

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurological Medicine II						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				理学療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学 (補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症				教科書で予習しておく。	
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	4	認知症、記憶障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	神経内科における感染症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	Pediatric science						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	伊藤 実喜		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる	
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる	
	○	○				小児期の神経系疾患について説明できる	
	○	○				小児期の筋・骨格系疾患について説明できる	
○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書: 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第5版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 小児科学概論1 発達・成長・栄養・摂食				教科書で範囲の予習しておく。	
	2	第1章 小児科学概論2 保健 第2章 診断				教科書で範囲の予習しておく。	
	3	第3章 新生児・未熟児疾患1 Apgar・IUGR・未熟児				教科書で範囲の予習しておく。	
	4	第3章 新生児・未熟児疾患2 周産期異常・脳室周囲・内出血				教科書で範囲の予習しておく。	
	5	第4章 先天異常と遺伝病1 メンデルの法則・エピゲノム				教科書で範囲の予習しておく。	
	6	第4章 先天異常と遺伝病2 染色体異常・奇形・先天代謝異常				教科書で範囲の予習しておく。	
	7	第5章 神経・筋・骨系疾患1 感染症・脳症・ADEM・CNS奇形				教科書で範囲の予習しておく。	
	8	第5章 神経・筋・骨系疾患2 先天性CNS疾患・てんかん・脳性麻痺				教科書で範囲の予習しておく。	
	9	第5章 神経・筋・骨系疾患3 精神発達遅延・筋ジストロフィー				教科書で範囲の予習しておく。	
	10	第6章 循環器疾患 第7章 呼吸器疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	11	第8章 感染症 14章 腫瘍性疾患 第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待				教科書で範囲の予習しておく。	
	12	第9章 消化器疾患 第10章 内分泌・代謝疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
	13	第11章 血液 第12章 免疫・アレルギー疾患、膠原病				教科書で範囲の予習しておく。	
	14	第13章 腎・泌尿器系・生殖器疾患 第16章 重症心身障害児 第17章 眼科・耳鼻科的疾患				教科書で範囲の予習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	精神医学Ⅱ						
科目名(英)	Psychiatry Ⅱ						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	諸江 健二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	精神医学一般の知識、個々の疾患の精神病理、臨床像、治療について、医療従事者として最低知っておかなければならない事柄について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学一般の知識について説明できる。	
	○	○				精神疾患の精神病理、臨床像について説明できる。	
	○	○				精神疾患に対する治療について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 医学書院 参考文献:精神科ポケット辞典(弘文堂)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	発達障害(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	2	発達障害(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	3	精神作用物質			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	4	てんかん(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	5	てんかん(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	6	器質性精神障害と症状精神病(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	7	器質性精神障害と症状精神病(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	8	精神機能検査			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	9	統合失調症			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	10	感情障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	11	神経症性障害			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	12	治療とリハビリテーション(1)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	13	治療とリハビリテーション(2)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
	14	これまでのまとめ1			まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。		
15	定期試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	老年医学						
科目名(英)	Geriatrics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	医師として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	我が国の平均寿命は世界一位となり、高齢障害者が増加している。リハビリテーションの場においても高齢者に関する知識がさらに重要となるであろう。この授業では老年医学に関する基本的な医学知識(病態、診断、治療、リハビリ)の習得を目指し、臨床実習で応用できる力を身につけることを目的とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				老年医学一般の知識について説明できる。	
	○	○				老年期疾患の病理、臨床像について説明できる。	
	○	○				老年期疾患に対するリハビリテーションについて説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 老年学(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1・2章 老化と老年病、加齢に伴う変化(生理機能)				配布資料の復習	
	2	第3・4・5・6章 加齢に伴う変化(運動機能・精神心理面)				配布資料の復習	
	3	第7・8・9章 高齢者へのアプローチ				配布資料の復習	
	4	第10章 老年症候群				配布資料の復習	
	5	第11章 循環器1 第12章 呼吸器1				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	6	第12章 呼吸器2 第13章 消化器				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	7	第14章 骨・運動器 骨折・骨粗鬆症・変形性関節症				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	8	第15章 神経疾患 脳血管障害など				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	9	第16章 精神疾患 認知症とうつ				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	10	第17章 内分泌代謝疾患 第18章 血液免疫疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	11	第19章 腎疾患 第20章 泌尿器疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	12	第21章 皮膚口腔疾患 第22章 感染症				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	13	第23章 耳鼻科疾患 第24章 眼科疾患				配布資料の復習と関係する臓器に関する予習復習	
	14	第25～32章 高齢者を取り巻く環境・リハビリテーション				講義全体の資料整理と試験に向けての準備	
15	まとめ				講義全体の資料整理と試験に向けての準備		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	保健医療福祉制度論						
科目名(英)	Medical welfare System						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	仲野 悟		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	医療と福祉の制度について学習し、作業療法士として各制度に対する知識を持つことの有用性を理解してもらう。また、これから変化していく各制度の情報に耳を傾け、自ら学習していくといった意識を持つ						
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="checkbox"/>						
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	<input type="radio"/>					リハビリテーションの診療報酬など作業療法士に関係する医療保険制度を説明できる	
	<input type="radio"/>					障害者手帳や障害者総合支援法に規定されるサービスを述べることができる	
	<input type="radio"/>					地域包括ケアシステムを説明できる	
	<input type="radio"/>					介護保険に規定されるサービスを述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	保険と年金の動向 財団法人 厚生統計協会 国民の福祉の動向 財団法人 厚生統計協会 参考文献:「厚生労働省ホームページ」(http://www.mhlw.go.jp/)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業の概要				配布資料を使用し復習	
	2	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)				配布資料を使用し復習	
	3	医療保険制度(医療保険の仕組み、保険診療のルール、リハビリテーション料の算定方法)				配布資料を使用し復習	
	4	リハビリテーション診療報酬				配布資料を使用し復習	
	5	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)				配布資料を使用し復習	
	6	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)				配布資料を使用し復習	
	7	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)				配布資料を使用し復習	
	8	高齢者福祉(介護保険制度、後期高齢者医療制度)				配布資料を使用し復習	
	9	リハビリテーション介護報酬				配布資料を使用し復習	
	10	リハビリテーション介護報酬				配布資料を使用し復習	
	11	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	12	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	13	障害者福祉(各福祉制度、各福祉制度の仕組み、障害者総合支援法)				配布資料を使用し復習	
	14	年金制度				配布資料を使用し復習	
15	まとめ				配布資料を使用し復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎					100%
履修上の注意							

科目名	基礎作業学実習Ⅱ						
科目名(英)	Occupation Based Overview ; Practice						
単位数	1	時間数	30	担当者	井本 理美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・デイケアにて作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年						
授業概要	1. 作業療法における「作業」について教授する。 2. 作業分析について学び、実際に体験し発表を行う。 3. 「指導法」について学び、「作業の指導」を実際に体験する。 4. 作業の治療的な適用のしかたを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				作業療法における「作業」について説明ができる		
	○	○	○		作業分析を実際に行うことによって、作業分析の理解をより深める事が出来る		
	○	○	○		学生同士で指導法を実施する事で、受ける側も理解でき、臨床に活かす事が出来る。		
	○	○			作業療法の臨床での治療的介入を理解する事が出来る。		
テキスト・教材 参考図書	長崎重信 監修:作業学, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2, メジカルビュー社, 2010. 参考文献:吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう(作業科学入門), 医歯薬出版, 2008. 日本作業療法士協会:作業・その治療的応用 改訂第2版, 協同医学出版社, 2003. 古川宏:作業活動実習マニュアル, 医歯薬出版,2012. 小林夏子・福田恵美子:基礎作業学 第2版 (標準作業療法学・専門分野), 医学書院, 2012. 石川齊, 古川宏 他:図解作業療法技術ガイド第3版, 文光堂, 2011.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	作業療法における作業とその意義			配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	2	作業の治療応用とその効果			配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	3	作業遂行過程における評価(作業分析について)			配布プリントの復習 1年次「基礎作業学実習Ⅰ」の資料・レポート復習		
	4	作業分析実習(グループ課題)			必要文献の準備		
	5	作業分析実習(グループ課題)					
	6	作業分析実習(グループ課題)					
	7	作業分析実習(グループ課題)			レポート提出作成の準備		
	8	作業分析まとめ・小テスト			レポート作成		
	9	臨床場面での作業活動の支援(対象者への説明、指導法)			レポート提出 まとめプリント配布		
	10	指導法体験実習(ペアで実習)					
	11	指導法体験実習(ペアで実習)			レポート提出作成の準備		
	12	指導法体験実習 まとめ			レポート作成		
	13	治療への応用の実際・現場での様子①			レポート提出、配布プリントの復習 まとめプリント配布		
	14	治療への応用の実際・現場での様子②			レポート提出、配布プリントの復習 次回小テスト範囲を復習		
15	まとめ・小テスト						
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)レポートを2回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	小テスト		◎				10%
	宿題・レポート	◎	◎	○	○		20%
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	作業療法評価学Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅱ						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	作業療法のアプローチを行う上で必要なことは、対象となるクライアントのを知ることである。その為には身体的・精神的・社会的な情報を、直接的・間接的に収集し統合し、解釈しなければならない。この授業では、主に身体的な情報を集める為の技術を身に付ける。そしてその集めたデータがクライアントの生活にどう結びついていくのかを考える。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法評価の目的と流れを説明することができる。	
	○	○				作業療法評価法の様々な種類を説明できる。	
	○	○	○	○		作業療法評価を実際に行うことができる。	
	○	○				評価結果から得られたデータが実際の生活にどう影響しているかを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 2. 臨床での測定精度を高めるROM測定法 メジカルレビュー社 3. 新・徒手筋力検査法 協同医書出版 4. 神経診察クローズアップ メジカルビュー社 5. 知覚をみる・いかす 手の知覚再教育 協同医書出版 6. 運動療法のための機能解剖学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 総論					
	2	・身体計測 ・バイタルサイン				配布プリントを復習し、実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。	
	3	・関節可動域測定① オリエンテーション、上肢(肩) ・関節可動域測定② 上肢(肩、肘、前腕)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	4	・関節可動域測定③ 上肢(前腕、手関節) ・関節可動域測定④ 上肢(前腕、手関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	5	・関節可動域測定⑤ 上肢(指) ・関節可動域測定⑥ 上肢(指)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	6	関節可動域測定⑦ 上肢(上肢全般の復習) ・関節可動域測定⑧ 下肢(股関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	7	・関節可動域測定⑨ 下肢(膝) ・関節可動域測定⑩ 下肢(足関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	8	・関節可動域測定⑪ 体幹 ・関節可動域測定⑫ 体幹				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	9	・徒手筋力検査法① 上肢 ・徒手筋力検査法② 上肢				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	10	・徒手筋力検査法③ 上肢 ・徒手筋力検査法④ 上肢				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	11	・徒手筋力検査法⑤ 上肢 ・徒手筋力検査法⑥ 上肢				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	12	・徒手筋力検査法⑦ 下肢 ・徒手筋力検査法⑧ 下肢				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	13	・徒手筋力検査法⑨ 下肢 ・徒手筋力検査法⑩ 体幹				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	14	・徒手筋力検査法⑪ 体幹 MMT全体の復習 ・握力・背筋力など器具を使った筋力測定				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。	
	15	・前期実技の総まとめ				前期行った実技をもう一度振り返る	
評価方法	(1) 毎回実施したことをレポートする。レポートは最終回に提出する (2) 定期試験は筆記試験と実技試験を行う。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	実技試験	◎	◎	◎	◎		40%
履修上の注意	実習は主に機能訓練室で行います。機能訓練室使用時には既定の実習着を着用してください。						

科目名	身体障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年生						
授業概要	作業療法士の関わる身体障害領域について、その対象、目的、プロセス、介入について学習する。身体障害各論で、運動、感覚、関節可動域、筋緊張が障害された状態を学習する。疾患別の導入として、脳血管障害の障害像とその作業療法について学習する。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体障害領域において作業療法士に求められる役割を説明することができる。	
	○	○				作業療法の実施過程を説明することができる。	
	○	○		○		各身体機能が障害された状態と、それに伴う作業の障害についてディスカッションできる。	
	○	○				脳血管障害の障害像、急性期・回復期・生活期作業療法の違いを説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	①ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(MEDICAL VIEW)②身体領域の作業療法 第2版(中央法規)③病気が見える vol.7 脳・神経(メディックメディア) ④オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション (何のためにこの科目を学ぶのか、授業の受け方) 総論① (身体障害領域の作業療法とは、歴史、ICIDHとICF)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	2	総論② (身体障害領域の作業療法の実施過程、アプローチの方向性) 【障害別】各論 関節可動域制限① (関節可動域制限とは、分類、発生要因)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	3	【障害別】各論 関節可動域制限② (作業との関連、作業療法:回復モデル) 【障害別】各論 関節可動域制限③ (作業療法:代償モデル、習得モデル、維				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 総論①②の小テストを行うため、準備をすること	
	4	【障害別】各論 筋力・筋持久力低下① (筋力・筋持久力低下とは、発生要因) 【障害別】各論 筋力・筋持久力低下② (作業との関連、作業療法:回復モデル)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 関節可動域制限の小テストを行うため、準備をすること	
	5	【障害別】各論 筋力・筋持久力低下③ (作業療法:代償モデル、習得モデル、維持)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	6	【障害別】各論 感覚障害② (感覚障害による上肢の機能障害) 【障害別】各論 感覚障害③ (作業療法:回復モデル、代償モデル)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 筋力低下の小テストを行うため、準備をすること	
	7	【障害別】各論 筋緊張① (筋緊張異常とは、評価) 【障害別】各論 筋緊張② (作業療法:回復モデル、作業の視点)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 感覚障害の小テストを行うため、準備をすること	
	8	【障害別】各論 失調症① (失調症とは、分類、小脳性運動失調、臨床症状) 【障害別】各論 失調症② (作業療法:回復モデル、作業の視点)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 中間試験(第1回~6回の内容)の準備を行うこと	
	9	【テスト】第1回~第6回の内容に関する中間試験 【疾患別】各論 脳血管障害① (分類、TIA、脳出血)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	10	【疾患別】各論 脳血管障害② (クモ膜下出血、AVMIに伴う頭蓋内出血、脳梗塞)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	11	【疾患別】各論 脳血管障害④ (麻痺の回復過程とブルンストロームステージ)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	12	【疾患別】各論 脳血管障害⑤ (感覚障害、高次脳機能障害などその他の症状) 【疾患別】各論 脳血管障害⑥ (評価)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 脳血管障害の小テストを行うため、準備をすること	
	13	【疾患別】各論 脳血管障害⑦ (予後予測) 【疾患別】各論 脳血管障害⑧ (急性期の作業療法評価)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	14	【疾患別】各論 脳血管障害⑨ (急性期の作業療法、弛緩性麻痺の管理) 【疾患別】各論 脳血管障害⑩ (機能回復訓練、ADL訓練)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと	
	15	【疾患別】各論 脳血管障害⑪ (IADL訓練、QOLへのアプローチ、退院支援) 【疾患別】各論 脳血管障害⑫ (生活期の作業療法)				まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと 定期試験(第7回~14回の内容)の準備を行うこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを複数回実施する。(2)授業の中で中間試験を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	中間試験・定期試験	◎					80%
	小テスト	◎					20%
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学						
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental Disorders						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	竹中 祐二		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院・福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	発達障がい領域の作業療法を展開するうえで必要な人間発達学を基盤とした関連知識を統合し、本人や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりのできる作業療法士を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の理念、目的、役割を説明することができる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の流れを説明することができる。	
	○	○				代表的障害(発達障害、個性まひ、摂食嚥下障害)について臨床像を説明することができる。	
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:長崎 重信監修、作業療法学7 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学、メジカルビュー社 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店 細田多穂、人間発達学テキスト、三輪書店						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもの発達と作業療法 姿勢・運動発達				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	2	子どもの発達と作業療法 感覚統合機能の発達、認知・思考機能の発達				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	3	子どもの発達と作業療法 コミュニケーション機能の発達、子供の発達と遊び、セルフケアの発達と遊び				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	4	評価 発達障害領域の作業療法評価				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	5	評価 発達障害領域の作業療法評価				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	6	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	7	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	8	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	9	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	10	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	11	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	12	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	13	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	14	まとめ～介護体験実習に向けて～				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
15	介護体験実習ガイダンス				介護体験実習に向けて、復習、準備をしておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)介護体験実習後にレポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				70%
	小テスト	◎	○				10%
	レポート	○	○		○		20%
履修上の注意	前期課程履修後に特別支援学校での2日間の介護体験実習を7月中に実施する。日程は日程調整の上告知する。 その他、必要なものについては事業の中で提示をします。						

科目名	精神障害作業療法学 I						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder I						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部2年						
授業概要	①精神医学の歴史と作業療法の歩みを知る ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する ④精神科作業療法の構造・要素を理解する ⑤精神障害特性・モデルと回復過程を理解する						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を説明できる。	
	○	○				精神保健・福祉領域における法律・施策を説明できる。	
	○	○				精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を説明できる。	
	○	○				精神科作業療法の構造・要素と、精神障害特性・モデルと回復過程を説明できる。	
	○	○		○		インテーク面接を実践でき、評価結果をまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:①香山 明美 他編:精神障害作業療法-生活を支援する一 医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)富岡 詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書).協同医書出版社 2)石井 良和他編:精神障害領域の作業療法.中央法規 3)屋田 源四郎著:統合失調症患者の行動特性.金剛出版 4)松井 紀和編著:精神科作業療法の手引き.牧野出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 精神障害者処遇の歴史及び精神医学の発展				見学実習での精神科での疑問などをまとめる。	
	2	日本の精神医学の歴史 精神障害者支援に関わる法・制度				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	3	精神障害における生活障害と障害特性				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	4	精神疾患の成り立ちと機能障害				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	5	作業療法の構造と実践形態				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	6	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入)				面接演習のための準備を行う。	
	7	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入・インテーク面接実習)				面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。	
	8	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	9	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価) 精神障害作業療法の実践(目標の設定と作業療法計画)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	10	回復過程における作業療法の実践				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	11	回復過程における作業療法の実践				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	12	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	13	事例検討(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
	14	事例検討(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
15	事例検討(発表) 前期の振り返り				事例検討の結果をまとめグループ毎に発表し、レポートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						

科目名	義肢学						
科目名(英)	Prosthetics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	中島 大輔		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 1年						
授業概要	義肢(義手、義足)についての適応、構造、その効果に関する知識のみならず、その作成に関わる制度やその調整方法を含めて、臨床での事例も紹介しながら学習する。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				義肢の目的、機能や構造などの基礎的知識を理解することができる。	
	○	○				義肢の適応、位置づけや役割を理解することができる。	
	○	○				義肢における作業療法士の役割を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	義肢装具のチェックポイント(医学書院)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	総論、制度				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	2	切断 切断・離断の医学的治療について				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	3	切断 上下肢切断の機能的特徴とリハビリテーション				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	4	義肢総論				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	5	義足 義足の構造と部品				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	6	義足 大腿義足				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	7	義足 下腿義足				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	8	義足 その他の義足				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	9	補装具、福祉サービス				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	10	義手 義手の構造と部品				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	11	義手 前腕義手				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	12	義手 上腕義手				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	13	義手 肩義手、筋電義手他				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	14	復習				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
15	定期試験対策						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				40%
履修上の注意							

科目名	ADL								
科目名(英)	Activities of Daily Living								
単位数	2単位	時間数	90分×15回	担当者	原田 芳美				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院で勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 2年								
授業概要	人の生活におけるADLの位置づけを知り、特に身体障害領域で用いる ADL評価について教授する。 また、ADLにおける具体的支援の基本知識と技能について実技も交えて学習する。 併せて、ADLを支援するうえで必要な移動補助具(車椅子)について理解を深め、適切に使用することができるようになることも目的とする。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	△	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標			
	○	○				ADLの定義と分類を整理し説明することができる			
	○	○				ADLおよびIADLの問題点と援助の視点を説明することができる			
	○	○				ADL評価で用いるFIMとBIIについて理解し、評価することができる			
	○	○	○			OSCEを用いてADLの技能を修得することができる			
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)藤井浩美:日常生活活動の作業療法. 中央法規 2)藤栄一:臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編). 金原出版株式会社								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	コースガイダンス ADL(日常生活活動)とIADL(手段的日常生活活動)の概念				配布プリントの復習			
	2	身体障害分野における日常生活活動の評価(総論)				配布プリントの復習			
	3	身体障害分野における日常生活活動の評価(各論)				配布プリントの復習			
	4	FIM演習				配布プリントの復習			
	5	セルフケア動作介入への思考過程				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	6	食事動作に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	7	更衣動作(上衣)に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	8	更衣動作(下衣)に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	9	車椅子の基礎				教科書2)の今回の範囲の予習と復習 宿題:レポートの提出			
	10	車椅子の駆動介助技術				配布プリントの予習と復習 宿題:レポートの提出			
	11	車椅子駆動に対する介入技術				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	12	車椅子シーティング①(リクライニングとティルティング車椅子)				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	13	車椅子シーティング②(車椅子クッション)				配布プリントの復習 宿題:レポートの提出			
	14	車椅子シーティング③(ワークショップ)				配布プリントの復習			
	15	まとめ				配布プリントの復習			
評価方法	成績処理方法:(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	◎				80%		
	小テスト								
	宿題・レポート	◎	◎	○			20%		
	発表・作品								
履修上の注意									